



## 2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年8月2日

上場会社名 TOA株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 6809 URL <https://www.toa.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 竹内 一弘  
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 吉田 圭吾 (TEL) (078) 303-5620  
 四半期報告書提出予定日 2022年8月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第1四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	9,084	9.8	△302	—	△37	—	267	—
2022年3月期第1四半期	8,275	△2.2	△52	—	△19	—	△104	—

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 1,090百万円 (△8.3%) 2022年3月期第1四半期 1,188百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	8.20	—
2022年3月期第1四半期	△3.21	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	61,230	47,563	73.7
2022年3月期	60,688	46,939	73.7

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 45,147百万円 2022年3月期 44,720百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	10.00	—	10.00	20.00
2023年3月期	—	—	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	20.00	—	20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2022年3月期配当金の内訳 安定配当20円

2023年3月期配当金(予想)につきましては、2022年5月2日に「2022年3月期決算短信」にて公表したとおり、安定配当40円に業績を加味して、連結配当性向45%を目安に決定いたします。

### 3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	44,000	7.7	2,900	34.3	3,000	24.6	2,250	53.4	69.13

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2023年3月期1Q	34,536,635株	2022年3月期	34,536,635株
2023年3月期1Q	1,990,647株	2022年3月期	1,990,647株
2023年3月期1Q	32,545,988株	2022年3月期1Q	32,519,361株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、予想数値と異なる場合があります。
- ・四半期決算補足説明資料につきましては、当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書 .....	5
四半期連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	7
(セグメント情報等) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く環境は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のワクチン普及などにより社会経済活動の正常化が進むものの、一部地域における新型コロナウイルス感染症の再拡大や、原油や天然ガス、鋼材、半導体などの原材料価格の高騰や輸送コストの上昇、ウクライナ情勢をはじめとする地政学的リスクの高まりに加え、為替相場における急速な円安など、世界経済の先行きについては引き続き注視が必要です。

このような環境の下、当社グループでは企業価値である「Smiles for the Public ——人々が笑顔になれる社会をつくる——」の実現に向け、2030年を見据えた経営ビジョンとして、「Dr. Sound ——社会の音を良くするプロフェッショナル集団——になる」を掲げております。お客さまに選ばれる良い音体験の継続的提供を通じ、社会課題の特定、解決、改善の一連のサイクルをお客さまと共に実現してゆく頼れるパートナーとして、人々の安心・信頼・感動の価値実現を目指しております。

具体的には、国内においてお客さまと多様な接点で価値提供を実現する「つながるビジネス」の確立に向け、機器異常への早期対応と設備の一元管理で放送の安定稼働をサポートする「リモートメンテナンスサービス」の提供を開始しました。また、世界5地域でのマーケティング活動の効率化に向け、情報システム基盤の導入・稼働を展開し、それぞれの市場環境に応じてユーザーの満足度をより高いレベルで実現させる取り組みを進めてまいりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は9,084百万円（前年同四半期比+808百万円、9.8%増）となりました。利益については、原材料価格の高騰や輸送コストなどの営業費用の増加により、営業利益は△302百万円（前年同四半期比△250百万円）、経常利益は△37百万円（前年同四半期比△18百万円）、土地の売却益もあり親会社株主に帰属する四半期純利益は267百万円（前年同四半期比+371百万円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### (日本)

売上高は4,795百万円（前年同四半期比△29百万円、0.6%減）、セグメント利益（営業利益）は451百万円（前年同四半期比△226百万円、33.5%減）となりました。

工場向けや鉄道車両向けの売上は伸長しました。また、街頭防犯需要の獲得などにより映像機器の売上は増加しましたが、教育市場向けや減災・防災市場向けの売上が減少し、セグメント全体での売上高は減少しました。

売上高の減少に加え、原材料価格の高騰や輸送コストなどの営業費用の増加もあり、セグメント利益は減少しました。

#### (アジア・パシフィック)

売上高は2,108百万円（前年同四半期比+621百万円、41.8%増）、セグメント利益（営業利益）は280百万円（前年同四半期比+14百万円、5.5%増）となりました。

インドネシアを中心としたイスラム圏においては、ラマダン需要の取り込みにより宗教市場向けの販売が伸長しました。また、タイでは新規開業の商業施設への納入が進んだことにより、セグメント全体の売上高は増加し、セグメント利益は増加しました。

#### (欧州・中東・アフリカ)

売上高は1,185百万円（前年同四半期比+168百万円、16.5%増）、セグメント利益（営業利益）は163百万円（前年同四半期比+40百万円、32.8%増）となりました。

イギリスでは複合オフィスビルへの納入が進み、欧州や中東での販売も堅調に推移したことにより、セグメント全体の売上高は増加し、セグメント利益は増加しました。

#### (アメリカ)

売上高は532百万円（前年同四半期比+45百万円、9.2%増）、セグメント利益（営業利益）は△5百万円（前年同四半期比△37百万円）となりました。

アメリカでは、コンテナ不足などの影響により商品供給遅延などがありましたが、為替の影響もあり売上高は増加し、カナダでは教育市場向けの納入が進み、セグメント全体の売上高は増加しました。

売上高は増加しましたが、原材料価格の高騰や輸送コストなどの営業費用の増加により、セグメント利益は減少しました。

(中国・東アジア)

売上高は463百万円(前年同四半期比+3百万円、0.7%増)、セグメント利益(営業利益)は55百万円(前年同四半期比+1百万円、2.1%増)となりました。

中国では新型コロナウイルス感染症の再拡大によるロックダウンの影響により売上高は減少しましたが、台湾では大型スポーツ施設や半導体を中心とした工場、香港では消防局などの官公庁向けの納入が進んだことなどにより、セグメント全体の売上高は増加し、セグメント利益は増加しました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は61,230百万円となり、前連結会計年度末に比べ541百万円の増加となりました。資産の部は、売上債権の減少などありましたが、棚卸資産の増加などにより増加しました。負債及び純資産の部は、仕入債務やその他有価証券評価差額金の減少などありましたが、短期借入金や為替換算調整勘定の増加などにより増加しました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の通期の業績予想につきましては、「2022年3月期決算短信」で公表しております当初予想から変更していません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	17,910	17,844
受取手形、売掛金及び契約資産	9,149	7,930
商品及び製品	6,931	7,903
仕掛品	973	1,058
原材料及び貯蔵品	4,718	5,255
その他	804	1,251
貸倒引当金	△77	△58
流動資産合計	40,410	41,185
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	6,190	6,127
その他	4,096	4,252
有形固定資産合計	10,287	10,379
無形固定資産		
投資その他の資産	1,709	1,830
投資有価証券	7,230	6,772
その他	1,051	1,062
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	8,280	7,834
固定資産合計	20,277	20,044
資産合計	60,688	61,230
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,827	3,459
短期借入金	2,161	2,624
未払法人税等	384	277
引当金	188	220
その他	2,503	2,418
流動負債合計	9,065	8,999
固定負債		
退職給付に係る負債	2,558	2,562
その他	2,124	2,104
固定負債合計	4,683	4,667
負債合計	13,749	13,666
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	5,279	5,279
資本剰余金	5,065	5,065
利益剰余金	31,618	31,560
自己株式	△1,352	△1,352
株主資本合計	40,611	40,553
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,426	4,109
為替換算調整勘定	△306	503
退職給付に係る調整累計額	△12	△18
その他の包括利益累計額合計	4,108	4,593
非支配株主持分	2,219	2,415
純資産合計	46,939	47,563
負債純資産合計	60,688	61,230

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	8,275	9,084
売上原価	4,691	5,573
売上総利益	3,583	3,510
販売費及び一般管理費	3,635	3,812
営業損失(△)	△52	△302
営業外収益		
受取利息	2	2
受取配当金	51	57
為替差益	—	164
持分法による投資利益	0	—
その他	15	54
営業外収益合計	69	278
営業外費用		
支払利息	11	10
為替差損	22	—
持分法による投資損失	—	0
その他	4	2
営業外費用合計	37	13
経常損失(△)	△19	△37
特別利益		
土地売却益	—	522
為替換算調整勘定取崩益	19	—
特別利益合計	19	522
税金等調整前四半期純利益	0	485
法人税等	87	131
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△87	353
非支配株主に帰属する四半期純利益	17	86
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△104	267

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△87	353
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	546	△317
為替換算調整勘定	736	1,061
持分法適用会社に対する持分相当額	0	△0
退職給付に係る調整額	△6	△7
その他の包括利益合計	1,275	736
四半期包括利益	1,188	1,090
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,015	752
非支配株主に係る四半期包括利益	173	337



## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

## ○税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第1四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注)1	四半期連結損益計算書計上額 (注)2
	日本	アジア・パシフィック	欧州・中東・アフリカ	アメリカ	中国・東アジア	計		
売上高								
外部顧客への売上高	4,824	1,486	1,017	487	459	8,275	—	8,275
セグメント間の内部売上高又は振替高	782	26	4	3	5	821	△821	—
計	5,606	1,512	1,021	490	464	9,096	△821	8,275
セグメント利益又は損失(△)	678	266	123	31	54	1,153	△1,205	△52

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,205百万円には、セグメント間取引消去19百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,225百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない本社部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## II 当第1四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注)1	四半期連結損益計算書計上額 (注)2
	日本	アジア・パシフィック	欧州・中東・アフリカ	アメリカ	中国・東アジア	計		
売上高								
外部顧客への売上高	4,795	2,108	1,185	532	463	9,084	—	9,084
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,246	34	4	2	7	1,295	△1,295	—
計	6,041	2,143	1,189	534	470	10,379	△1,295	9,084
セグメント利益又は損失(△)	451	280	163	△5	55	945	△1,248	△302

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,248百万円には、セグメント間取引消去21百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,269百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない本社部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。